

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ビークルエナジージャパン F	階数	地上4F
建設地	京都府乙訓郡大山崎町字立嶋25	構造	S造
用途地域	工業地域、22条区域	平均居住人員	510人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年5月29日
敷地面積	15,380 m ²	作成者	株式会社 日立建設設計
建築面積	7,159 m ²	確認日	2019年5月29日
延床面積	27,150 m ²	確認者	株式会社 日立建設設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%

②建築物の取組み: 73%

③上記+②以外の: 73%

④上記+: 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 ・高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		その他
Q1 室内環境 ・リモコン等で照明制御が可能な計画とし、光環境向上に配慮している。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い内装材・設備機器の採用により、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・階高を高く確保することで、設備の更新性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。 ・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・O Aフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	LR3 敷地外環境 ・高効率な設備機器の採用によりCO ₂ の削減に配慮している。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される